

きょうの「模擬授業」課題について

よしだ はじめ

「データの分析」のまとめ、あるいは今回の指導要領で提示された「課題学習」として行う授業を想定しました。ただし、きょうはたぶん触れられないであろう「データの相関」については含みません（発展としては考えていますが）。つまり、箱ひげ図による分布の比較を行う課題です。

生徒には夏休みや冬休みの課題として、レポートにまとめさせる、さらにその発表会を行う、ということも考えられます。その際には、どんなデータについて比較したいかという「データの分析の目的」や、「データの収集」も生徒自身が行うことになります。箱ひげ図は他教科や総合学習のレポートにも応用できる手法です。

このように考えると、「データの分析」は数学Ⅰのすべての教科書で最後の項目として記載されていますが、1学年の学年末に配当するのは非常にもったいないのではないのでしょうか。また、下記で取り上げたように、数学Aの確率の授業でも利用できるのです。1学年の早い段階で扱ってほしい内容です。

今回用意したデータは次の6種類です。

- | | |
|------------|-------------------|
| 1. 経済 | 都道府県別最低賃金 |
| 2. 生活 | やさいの価格 |
| 3. スポーツ | サッカーの試合の入場者数 |
| 4. 文章 | 文章の1文あたりの文字数 |
| 5. 芸能 | AKBグループのメンバーの年齢 |
| 6. 確率（数学A） | 変形サイコロで1の目がでる相対度数 |

統計がさまざまな分野で利用できることの例となるでしょう。